

2017 年度 事業計画書

1. はじめに

昨年度から実施している組織診断により「芦生に特化した活動を通して芦生ならではの自然学校を目指す」ことを目標に、自然体験と環境保全の両輪による事業運営を行なうこととなった。その初年度にあたる 2017 年度は、これまで実施してきた自然体験の再整理と、環境保全分野において、環境保全型エコツーリズムの事業化のための調査およびモデル事業の実施を行なう。ただし、変革の外部資金等の調達を行いつつ収支均衡を保ちつつ、次に備える 1 年にしたい。

2. 重点目標

- 1) 環境保全分野の収益化に向けた事業の展開
- 2) 自然体験分野の事業の再整理
- 3) 収支均衡を図る（赤字にならない組織経営）

3. 事業内容 参加者目標：延べ 1,992 名（実人数 808 名）

1) 青少年育成事業 参加者目標：1,657 名（588 名）

a. 芦生や美山の自然や暮らしを体系的に学べる活動

- ①アンズキッズキャンプコース （年 10 回） 参加者目標：延べ 532 名（28 名）

共催：一般財団法人ポジティブアースネイチャーズスクール

内容：自然の中で遊びやキャンプ活動を通して子どもが逞しく生きる力を伸ばす

- ②アンズキッズ日帰りコース （年 7 回） 参加者目標：延べ 200 名（25 名）

共催：一般財団法人ポジティブアースネイチャーズスクール

内容：自然の中で遊びを通して子どもが逞しく生きる力を伸ばす

b. 豊かな自然とふれることができる機会の提供

- ①福島の子どもたちの心と身体のケアを目的にした活動 参加者目標：延べ 105 名（15 名）

・ふくしまキッズの受け入れ（年 1 回）※JR 西日本あんしん社会財団助成事業 延べ：105 名

共催：田歌舎

- ②ドリームエンジン NET との共催事業 （年 1 回） 参加者目標：延べ 20 名（20 名）

・貧困問題を抱える子供を対象にした自然体験事業の受け入れ（年 1 回）

- ③青少年または環境保全に関する教育旅行等の受け入れ事業 延べ 800 名(500 名)

2) 指導者養成事業 参加者目標：延べ 115 名（55 名）

a.指導者養成

- ①学生ボランティア育成事業 （年 4 回） 参加者目標：延べ 40 名（10 名）

内容：芦生の森・美山川で活躍する学生ボランティア育成のための研修事業

- ②RAC リーダー養成（年 1 回） 参加者目標：延べ 45 名（15 名）

共催：芦生もりびと協会／株式会社野生復帰計画

内容：川での活動を支援する人材養成

- ③MFA（メディックファーストエイド）講習会（年 3 回） 参加者目標：延べ 30 名（30 名）

共催：NPO 法人テダス他

内容：MFA チャイルドケアプラス救急法をベースにした指導者養成（資格発行あり）

3) 環境保全事業 参加者目標：延べ 190 名（155 名）

a. 森の保全活動

①マザーツリープロジェクト（年 2 回） 参加者目標：延べ 40 名（20 名）

内容：ミズナラの保護樹を選定し、カシノナガキクイムシの侵入を防ぐとともに植樹し育む

b. 川の保全活動

①クリーンリバー（年 1 回） 参加者目標：延べ 50 名（50 名）

共催：美山漁業協同組合・美山町環境保全対策協議会

美山産学官公連携協議会景観環境保全プロジェクト

内容：清流美山川をかつての川の美しさを取り戻すための活動

②美山川での河川保護活動（新規事業）※添付資料あり 参加者目標：延べ 20 名（5 名）

内容：由良川水域の環境保護活動の実施 川の指導者育成（a2）

地球環境基金事業 夏原グラント事業

c. 環境保全型エコツーリズム（新規事業）

①芦生区の資源や人を巻き込み芦生全体に多様な人材の関わる仕組みづくりによる仕事づくり

※16 年度中に採用した人材とともに事業化に向けた調査及びモデル事業の実施

②新たな林地活用による事業化および地域づくりに向けた調査・人材採用

③芦生の森エコツアー（年 4 回） 参加者目標：延べ 80 名（80 名）

共催：芦生もりびと協会／京都大学芦生研究林

内容：芦生の森の実態を広く伝えるツアー活動

4) その他

a. 組織基盤整備

①組織基盤整備計画書に基づいた組織マネジメントの実施

b. 会員活動支援

①自主サークル活動の支援（年 2 回＋α）参加者目標：延べ 30 名（10 名）

内容：芦生自然学校の会員が自主的に芦生の森で活動に対する施設等の提供・活動のサポート

c. 美山町で行わるエコツーリズムを支援するための活動

①南丹市美山エコツーリズム推進協議会ガイド部会への参画

②一般社団法人芦生もりびと協会の運営

d. ①ドリームエンジンネットワーク 共同広報事業 ドリーム基金事業